

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	神学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（院） 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導（専院）
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示） 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. カリキュラム・ポリシーと関連してシラバスが作成されているか検証する制度を構築する。	→既存のカリキュラム研究委員会（学部）による検証および教授会に対する報告（2013年度までに）。	C	B			
2. 上記目標を実現するために、FD活動を充実させる。	→学部独自の課題に対応するFD研修会の開催（年2回）。	B	B			
3. 学生による授業評価をFD活動にフィードバックさせる。	→学生による授業評価のFD研修会への反映。	C	C			
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.3.1	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。 (説明) FD研修会は専任/非常勤教員ごとに開催し、それぞれの視点での独自課題にも言及した。またディプロマ・ポリシー（学位授与方針）およびカリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）についても取り上げ、各授業におけるシラバス作成にあたっては、カリキュラム・ポリシーが各授業の「到達目標」の要素として反映されるよう取り組んだ（2011年度）。また、2010年度秋学期には、1・2年次生の「基礎演習」においてLA（ラーニング・アシスタント）を試験的に導入し、授業担当者のサポートのもとに学生同士で学ぶ仕組みづくりを図った。加えて、それらを通じて学習指導のさらなる充実を試みた。
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>小項目6.3.2</p> <p>★</p>	<p>6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。</p> <p>(説明) 現行、神学部のシラバスは次の項目にしたがって作成している。「講義目的・到達目標」「各回ごとの授業内容」「授業方法」「教科書」「参考文献」「成績評価方法・基準」「学生による授業評価の方法」「準備学習等についての具体的な指示及び他の科目との関連」「キーワード」(オフィス・アワーについてはシラバスとは別様式にて公示)このうち、次の項目は必須入力となっている。「講義目的・到達目標」「各回ごとの授業内容」「成績評価方法および基準」「準備学習等についての具体的な指示及び他の科目との関連」また、すべてのシラバスはWEBで一般にも公開されている。以上、おおむね問題ないものと思われるが、とくにFD研修会(学部)においてシラバス内容の精査および書き方の研究を実施している。</p> <p>カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施方針)の策定を受けて、各授業担当者には、ポリシーにおける項目が各授業の「到達目標」の要素として反映されるような記述を求めている。</p> <p>なお、2008年度秋学期における全学的な授業に関する調査では「毎回の授業はおおむねシラバスにそって進行していた」という設問に対して、学部平均として4ポイントを超える結果(最高5ポイント)が出ており、個々の授業について精査は必要なものの、シラバスに基づいた授業展開についても概ね問題はないと判断している。2011年度春学期の全学授業調査についても、その結果を注視する。</p>
<p>小項目6.3.3</p>	<p>6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。</p> <p>(説明) 成績評価方法・基準については、シラバスに明記を徹底しているほか、定期試験期間前に別途、一覧の掲示も行っている。評価および単位認定については、成績調査における学生からの依頼件数からも、概ね適切に行われているものと考えている。</p> <p>■成績調査依頼件数：神学部開講科目(カッコ内は全学開講科目) 2010年度 0件(2件) / 2009年度 0件(3件) / 2008年度 0件(0件) / 2007年度 1件(0件)</p>
<p>小項目6.3.4</p>	<p>6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。</p> <p>(検証の有無) <input type="checkbox"/> いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input type="radio"/> 検証している <input checked="" type="radio"/> 検証していない</p> <p>(説明) 組織的研修の機会としてはFD研修会(学部)が挙げられるが、教育成果の指標およびその達成度を定期的に計る仕組みについては今後、カリキュラム研究委員会(学部)あるいは学部長室委員会での検討事項となっている。</p>
<p>その他</p>	

《評価指標データ》

履修者数規模別の授業科目数(少人数・中人数・大人数)
 少人数授業の授業形態の調査
 規模別講義室・演習室使用状況
 マルチメディア教室の稼働率
 遠隔授業を活用した授業の比率
 各年次セメスターごとの履修単位数制限の状況【基本的な指標データ】
 履修者別開講科目数・1科目当たりの履修者数
 学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
 成績評価の分布が適正な科目(平均点が70-75点)の比率
 GPA値(全学、学部別、男女別など)
 定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
 オープン授業(授業公開)の全授業における割合
 学生の授業評価の実施率(全学、学部別)
 学生の授業評価における当該授業への満足度に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
 在学生のうち、授業をまじめに評価したと思う学生の比率
 在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率
 大学院生の論文件数(査読制の雑誌と学内紀要等に分ける)
 日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
 一括申請による教職免許取得件数および取得者実数【基本的な指標データ】
 在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率

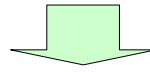
★ 追加データがあれば追加してください。

◎**効果が上がっている事項** ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》**効果が上がっている事項** 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目 6.3.1	
小項目 6.3.2	
★ 小項目 6.3.3	
小項目 6.3.4	
その他	

【次年度に向けた方策(1)】**伸長させるための方策**



注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

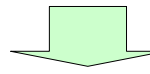
小項目 6.3.1	
小項目 6.3.2	
★ 小項目 6.3.3	
小項目 6.3.4	
その他	

◎**改善すべき事項** ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》**改善すべき事項** 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目 6.3.1	
小項目 6.3.2	
★ 小項目 6.3.3	
小項目 6.3.4	
その他	

《次年度に向けた方策(2)》**改善方策**



注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目 6.3.1	
小項目 6.3.2	
★ 小項目 6.3.3	
小項目 6.3.4	
その他	

◎**自由記述**

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他 (自由記述)	
-----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

○「現状の説明」6.3.1にあるLAの導入など、新しい試みの成果はどうだったのでしょうか。新しい取り組みをする場合には、アンケートその他の調査方法で、成果を確認することが期待されます。

○記述全体は具体的でわかりやすく、真摯な対応がなされていると評価できます。

【学内委員】

○小項目6.3.1の説明は、求められる要素に照らして不十分です。小項目6.3.3において、学生からの成績調査依頼の件数のみで評価の適切性を判断するのは不十分かつ不適切です。小項目6.3.4については、改善すべき事項として、改善方策を示すことが望まれます。

○2010年度秋学期から試験的に導入されたLAについて、効果・成果を検証され、報告されることを望みます。

○小項目6.3.3の現状説明では、2010年度報告で追加記述された内容(口述試験など授業科目の特性を取り入れた工夫、論文・レポート試験を評価する際のルールなど)も記述されれば、より詳細で具体的になると思われます。

○シラバスについては、2006年度の認証評価で「各回の授業内容など基本的な事柄を欠いているものがある」との助言が付され、2010年7月に提出した改善報告書で、語学や演習科目など学生の学習状況に歩調を合わせる科目以外は各回の授業内容を明示している旨の報告がなされています。さらに、2010年度生から卒業論文が導入されることも含めて、書き方など改善に向けてなお一層取り組むとされています。そのあたりの具体的な取り組みがあれば記述してください。

○小項目6.3.1の記述内容は、本項目に添えていません。要素を参考にされ再検討されることを求めます。

○小項目6.3.2の記述は的確です。なお、FD研修会(学部)におけるシラバス内容の精査および書き方の研究実施、各授業担当者へのカリキュラム・ポリシーにおける項目が各授業の「到達目標」の要素として反映されるような記述を求めていることについては評価されません。

○小項目6.3.3については、履修登録単位数上限について触れておかれることが適当ではないでしょうか。昨年度、追加記述された内容をその他についても加えられるとより一層分かりやすい説明になると思います。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・自己点検・評価は、本学の状況や考え方を社会にわかり易く説明する役割もあります。また、認証評価につなげることも視野に置く必要があります。加えて、本シートを見ればある程度のことのわかる必要があります。そのためにも、2008年度の認証評価報告書を参考にされて、全小項目についてもう少し詳しく現状説明されることを希望します。

・成績評価の分布による検証は実施されているのでしょうか。

・現状説明の、小項目6.3.3において、学生からの成績調査依頼の件数のみから評価の適切性を判断するのは不十分かつ不適切だと考えます。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.3.1

基盤評価：「当該学部・研究科の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること」「【学士】単位の実質化を図るため、1年間の履修科目登録の上限を50単位未満に設定していること。これに相当しない場合、単位の実質化を図る相応の措置(厳格な成績評価など)が併せてとられていること」「【修士・博士】研究指導計画に基づく研究指導、学位論文作成指導を行っていること」

○小項目6.3.2&6.3.3

基盤評価：「授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学生があらかじめこれを知ることができる状態にしていること」「授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること」「既修得単位の認定を、大学設置基準等に定められた基準に基づいて、適切な学内基準を設けて実施していること」

○小項目6.3.4

基盤評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること」

達成度評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が、定期的実施されるものであり、また、これを踏まえた改善プロセスを明らかにしているなど、教育の質の維持・向上に恒常的かつ適切に取り組んでいる」

○小項目6.3.1～6.3.4

達成度評価：「当該学部・研究科の教育課程の編成・実施方針に従い、学生に期待する学習成果の修得を促進する教育方法を採用している。」(評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。)

・方針と、授業形態等の教育方法の実態との整合性

・学習指導の充実等、学生の学習成果の修得を促進する取り組み

・シラバスを通じて示した授業計画、成績評価方法・基準等の適切な履行

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

小項目6.3.1の現状説明について、FD研修会を専任教員あるいは非常勤講師ごとに別枠で開催し、それぞれの立場からディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの内容について周知と理解に努めるよう機会を用意するとともに、各担当授業においてそれぞれのポリシーの達成に向けた授業形態を工夫するよう促した。ただし、その内容や工夫の具体的内容に関しては基本的に各担当者に委ねている。学習指導に関しては、少人数学部の利点を活かし、教授会また教員間において各学生の学習状況についての情報交換を行い、必要に応じて個人面談等を行っている。

また、同項目で触れたLA(ラーニング・アシスタント)について、2010年度秋学期から、1・2年次生の「基礎演習」において試験的に制度を導入し、授業内ではプレゼンテーション・ソフトウェア活用方法の講義やディスカッションのサポートなど、授業外ではレポートの課題設定や参考文献の探し方など、指導や相談を行っている。それらの活動により、学生同士で学ぶ仕組み、学びへの主体的な参加のための具体的な方法や動機づけを得られるように工夫している。活動の中間時点におけるLAミーティング、あるいは活動終了後のアンケートおよび活動報告書の提出に基づく総括ミーティングから、取り組みについては一定の効果を感じている。今後はアンケートの実施方法やミーティングの持ち方に工夫を試みながら、効果の測定に寄与する仕組みを検討していく。

小項目6.3.3の現状説明について、評価方法は筆記試験、レポート試験が中心となっているが、口述試験など授業科目の特性を取り入れた工夫も行っている。レポート試験にあっては、剽窃と引用の区別などを明らかにし、論文・レポートとして正しく論述されたものしか評価しないことを徹底している。また、履修単位数については、2010年度入学生からすべての学年において1学期24単位以内の上限を設けている(ただし、成績優秀者には4単位の制限緩和もあわせて行っている)